

# 令和8年度〔2026年度〕 学校推薦型選抜

## 小論文問題

〈60分〉

### 注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等があった場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
3. 問題冊子は、どのページも切り離してはいけません。
4. 解答用紙には「受験番号」「氏名」を記入しなさい。
5. 解答は「解答用紙」に記入しなさい。

東京医療保健大学  
和歌山看護学部

問題 1 以下の表と各文章を読み、問 1、問 2 に答えなさい。

問 1 表 1 は、令和 3 年社会生活基本調査の「趣味としての読書（マンガを除く）」をしている人口である。以下の□の文章を読み、【①】～【④】に当てはまる数字を書きなさい。【①】【③】【④】の人数（人）は整数で答えること。【②】の数値（%）は小数点第 1 位まで四捨五入して答えなさい。

表 1. 令和 3 年 社会生活基本調査「趣味としての読書（マンガを除く）」人口

都道府県	行動者数（人）
滋賀県	367,000
京都府	773,000
大阪府	2,520,000
兵庫県	1,501,000
奈良県	371,000
和歌山県	195,000
東京都	5,528,000

出典：総務省（2022）：社会生活基本調査 令和 3 年社会生活基本調査 調査票 A に基づく結果 生活行動に関する結果 生活行動編（地域） 趣味・娯楽，e-Stat, <https://www.e-stat.go.jp/dbview?sid=0003456571> (2025.8.19 閲覧)

社会生活基本調査において、「趣味としての読書（マンガを除く）」をする人は、和歌山県は近畿 6 府県で一番少ない。近畿 6 府県のうち県に限って、「趣味としての読書（マンガを除く）」をする人が最も多い県と和歌山県との差は【①】人である。全国で一番多い東京都と比較した場合、和歌山県で「趣味としての読書（マンガを除く）」をする人の数は、東京都の約【②】%に相当する。さらに、近畿 6 府県の「趣味としての読書（マンガを除く）」をする人の平均は【③】人、中央値は【④】人である。

問2 以下の  の文章を読み、1)、2) に答えなさい。

本を読んで、他人の脳のかけらとつながるといのは、言い換えれば、「みかた」を増やすことだ。みかたには2つの意味がある。

1つは【①】を広げ、増やすこと。

本を読むことは、著者が獲得した知恵を、読者の脳につなげる行為である。自分の脳を他者の「脳のかけら」とつなげることで、自分の脳が拡張される。世界を見るための視点や知恵を獲得することで、読者は世界の【①】を広げ、多面的かつ複眼的に思考できるようになる。

自身の世界観（【①】）を広げることで、玉石混交の情報にだまされにくくなり、ある決断をするための選択肢が増えることになる。何よりもリスクを分散することができるため、本を読めば読むほど自分の身を守ることにもつながる。

もう1つは【②】を増やすことである。

たくさんの著者の脳のかけらを自分の脳につなげることで【①】が拡張されると、さまざまな脳（人）との交流が可能となる。

そうすることで、他者と世界観を共有することにつながる。そして、共通点がいくつも発見され、脳のなかに共有のドメイン（領域）を築けた相手が、結果的に自分の【②】になってくれることにつながるのだ。

それはやがて他者との間の共感や信頼に発展し、あなたが周囲から得られる「信任（信頼と共感を掛け算したもの）」の総量（クレジット）を増やしてくれる。そこからさらに新たな脳のかけらとのつながりが生まれ、アメーバ状に【②】が広がっていくだろう。

結果的に、本を読む人と読まない人の中には、大きな差が生まれ、しかもその差は指数関数的に広がってくる。他人の脳のかけらをたくさんつないで世の中の【①】を広げている人と、そうでない人の差だ。

他人の脳のかけらをたくさんつないで世の中に【②】を増やすことで、夢を実現するときには他者から共感や信頼を得られる人とそうでない人の差だ。

周囲から信頼や共感が得られれば、大人として「信任」されたことになる。この信任の総量のことを、私は「クレジット」と呼んでいる。

クレジットが高まると自由度が上がり、クレジットが低くなると自由度は下がる。

結果的に、クレジットが高まるとあらゆる夢が実現しやすくなる。自分を取り巻く他人や組織や世の中全体からの信頼や共感が厚くなるからだ。そうすれば、多くのチャンスが巡ってくるし、夢を実現させるためのサポートも得られるだろう。

- 1) 【①】 【②】 に当てはまる、「みかた」と読む漢字を書きなさい。
  
- 2) 下線部について、看護職を目指す者として、本を読み「みかた」を増やすことがなぜ大切か、「文章で説明されている内容」と「あなた自身の考えや気づき」の両方を含めて400字で答えなさい。なお、空白は文字数に含まれません。

問題 2 以下の文章を読み、問に答えなさい。

### 思いやりの心－共感－

第一は、相手の気持ちの状態に心が向き、それを「うれしい」とか「悲しい」とかいうことばで表現できることである。その場の相手がどういう気持ちをもっているかがわからなくては、相手に親切にしたりお手伝いをしたりはできない。この面での認知能力は、五歳あたりから急に伸びてくることがわかっている。第二は、相手の立場に立って考えたり予測を立てたりする力である。このためには、自分と他人とはちがった考え方をもち、ちがった感じ方をするということが前提になる。そのうえに立って、うれしがっている相手ならこういう気持ちだろうとか、次にはこういうことをやるだろうという予測が立てられないと困る。共感のこの面は役割取得 role taking といわれることがあるが、それは文字通り相手の立場（役割）をとることをいっている。さらには、このことといっしょに、相手がこちらに何をしてもらいたいと思っているかということの予測ができないといけない。相手はいっしょによろこんでもらいたいのか、誰かにこのことを伝えてもらいたいのか、といったことである。役割取得を中心とした共感のこの側面は、七、八歳からだんだんに伸びはじめ、一一、二歳で大人と同じようになると考えられる。

共感の第三のことは、相手と同じ気持ちになることである。悲しんでいる相手とその悲しみを共にし、悩んでいるときには悩みを共にする。このことが相手に対する思いやりある行動の動機づけとなることは、容易に考えられることである。この点は、たとえば痛みとか苦しみについては、幼児でも相手と同じ情動をもつ場合のことが知られている。こうして思いやりの心として考えられる共感は、三つの側面からみることができる。その発達的变化はこの三つの側面でややちがっているが、思いやり行動を動機づけるという点で大切なはたらきをしている。

出典：菊池章夫（2016）：さらに/思いやりを科学する，川島書店，100-101. 一部改変

問 「思いやりの心」を示す内容の中から最も関心のあるものを一つ取り上げ、あなたが日々の生活のなかで実際に取り組んでいること、または、今後取り組んでみたいことについて 300 字で答えなさい。なお、空白は文字数に含まれません。